

## 健康保険組合は女性の健康と子どもの未来を応援します

国は、2030年代に入るまでの数年間を「少子化対策のラストチャンス」と位置づけ、令和5年「こども未来戦略方針」を閣議決定しました。女性の社会進出が加速するなか、子育てしやすい環境を整え、未来を担う子どもを育む社会の在り方が注目されています。特に、働く世代にとって、子どもを生き育てることを諦めないためには、男女ともに経済的・身体的に健全でなければなりません。今回の特集ではまず、出産を担う女性が抱える健康課題について、理解を深めてみましょう。

### ●どんなことで困った？(複数回答)

1位	月経不順・月経痛 など
2位	PMS(月経前症候群)
3位	更年期障害 メンタルヘルス
4位	不妊・妊活
5位	女性特有のがん

経済産業省「働く女性の健康推進に関する実態調査(2018)」をもとに作成。

女性には月経や妊娠出産トラブルのほか、女性特有のがんもあります。特に、思春期、性成熟期、更年期、老年期と生涯を通じて女性ホルモンが大きく変動するため、日常生活や業務に支障を及ぼすことが少なくありません。これらの特徴を身近な家族や職場の人に理解されているだけで、女性はとても大きな安心感へ繋がるのです。



## あなたは家庭内や職場内で、健康不安について相談できる人はいますか？

これは女性に限ったことではありません。男性も同じく、自分の健康について身近な人とのくらい共有できているでしょうか。普段から自分や相手の健康について話題にする機会が多いほど、家庭内が円満になり、仕事では業務パフォーマンスが向上することがわかっています。たとえ健康課題の解決には至らなくても、ちょっとした配慮や理解・協力が生まれるためです。

子育て中の男女も同じく「子どもが急に熱を出した」「受診するべき？」「処方された薬を飲んでくれない」など、親になれば様々な情報を頼りに選択決定する場面も増えるでしょう。そんな時、子育ての先輩である上司や同僚と日頃から情報交換ができていれば、配慮や協力が生まれることもあるはずですよ。

女性が働きやすい職場は、生理休暇や看護休暇、リモート勤務や時短勤務の拡充など、結果的に男性にとっても働きやすい環境を作り上げることになり、ひいては、貴重な労働力の流出防止にも繋がります。女性の健康サポートを通じて、男性も生き生きと働くことのできる職場づくりを一緒に目指していきましょう。

※今回はジェンダー平等の課題については取り扱っていません。